

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の道徳の未来へバトンをつなぐ



令和元年 11 月発行
西部教育事務所

東中筋小学校の挑戦!!「ユニット化で深める」第2弾

今回は、8月26日(月)に四万十市立東中筋小学校教材研究会でみなさんから出された意見を生かし、「本当の自由とは何か」について考えた授業の様子を紹介し、教材のユニット化によって道徳的価値を深めていくという挑戦は成功したのでしょうか。



西部管内の
講座関係のHP

【提案内容】小学校6年「頂上はすぐそこに (A1 自由と責任)」 【授業者】 堀岡 知世 教諭 (四万十市立東中筋小学校)

本時の提案

今回は、「自由と責任」をテーマに三つの教材を連続して配列し、その3回目を授業づくり講座の授業に設定しました。



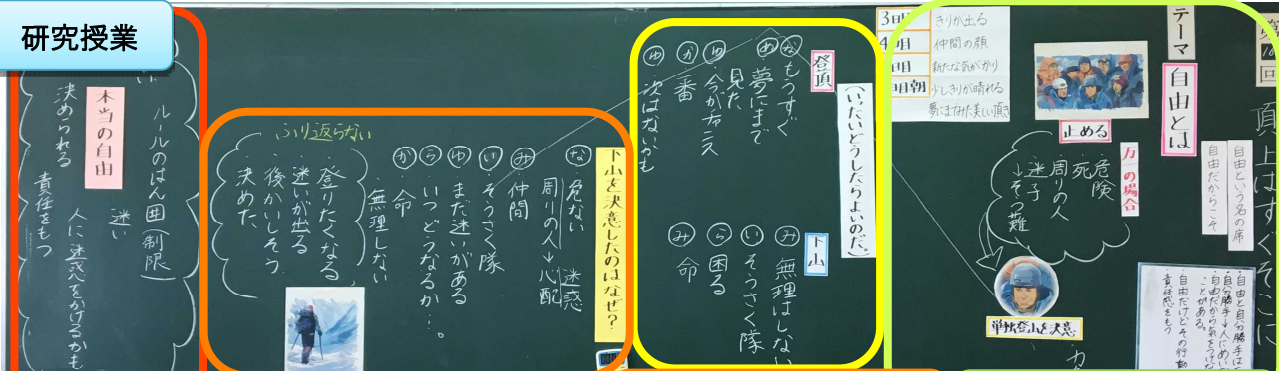
堀岡教諭

【ユニット構想】

自由という名の席 (C-12)	誰もが気持ちよくさせるようにするには、どんなことに気をつけなければならないか
自由だからこそ (A-1)	自由だからこそ大切にしないといけないものは何か
頂上はすぐそこに (A-1) 本時	自由だからこそ考えなければならないことは何か

1回目は「規則の尊重」の視点から、2回目は「自由」についてのいろいろの人の考えから「自由とは何だろうか?」という考えを深めました。3回目の『頂上はすぐそこに』では、「自由に伴う責任」をポイントにして考え、最後にユニットでの学びを生かし、「本当の自由とは何か。」について考えていきます。

研究授業



本当の自由って
どういうものだろう。

下山を決意したのは
なぜだろうか。

下山か、登頂か、この後
どうしたと思いますか。

前時までの振り返りと
教材の内容確認

★「本当の自由ってどういうものだろう。」についての児童の意見★

- ・自由はルール範囲内に入っているものだと思う。
- ・自由は楽しいこともいっぱいあれば、危険なこともある。ルールも、時間の制限もある。
- ・自由だったら自分で考えているいろいろなことができるけど、人に迷惑をかけたり、困ったりすることもある。
- ・自分で決めたことで後悔することもあるかもしれない。自由には責任や後悔、迷いがついてくるものなんだな。
- ・自由だったら自分でやることを決めていくことができるけど、その分やっつけていいことややっつけてはいけないことを区別して、責任を持って行動することが大事だなと思った。

「自由は楽しいことだけでなく、責任も伴う」ということを捉えることができた!

協議より

○良かったこと

- ・登頂と下山の両方の意見を揺さぶったことで「迷いに迷った」ことが理解できたのではないかな。
- ・揺さぶりや問い返し効果が効果的だったことで、後半の深まりにつながった。
- ・単元をユニットで構想したことの意味が伝わる授業だった。

●課題

- ・「自由ってちょっとしんどくない?」という揺さぶり発問で下山の決意の場面で行ったが、最後の発問で深める時に問い返してみてもよかったのではないかな。
- ・これからの自分の生活にまでは思考が至らなかったのではないかな。
- ・「自由」のマイナス面についての気づきが多くなり、よさについての意見が少なかったのが残念だった。

講師：高知大学 森 有希 准教授による指導・助言

◎A(1)「自由と責任」をより多面的・多角的に深めるために

ポイント1 「3時間分の自由についての考えを揺さぶり深める」

中心場面と最後の「本当の自由って?」の場面で、もっと自由についての考えを揺さぶるとよい。揺さぶるときは児童の心が揺れるまで深く問いかけたい。

ポイント2 「概念的な発問をするときは自分との関わりを大切に」

「本当の自由って?」の発問の時、児童が「夏休みの後半で…」と話し出した。あれこそ自我関与と道徳的価値の自覚をする姿である。概念的な発問で考えさせると概念の表面的な理解のみになりがちだが、「そういうことあったの?」などと問い返し、生活場面とつなげ、自分との関わりで考えさせることを大切にしたい。

ポイント3 「揺さぶって深めるための余裕を生み出す時間配分を」

本時で考えさせたい道徳的価値について追究するためには、内容確認を短くしたり、書く活動を1回にしたりして、問い返し、語らせる時間の余裕を作りたい。

◎「道徳科における基本的な思考スキル」

(児童・生徒の思考を深める4つのポイント) 森先生資料 2019

他者への置換

- …の立場ではどう思うか?

比較

- 同じところ、違うところは?
- 違いは何か?
- どうして違うのか?
- 比べて気付いたことは?

自分への置換

- 今までの自分は?
- 自分だったら?
- これからの自分は?

追究・吟味

- どうしてそう思うのか?
- 具体的には?
- 問題は何か?
- 本当にそうなのか?
- それはできるのか?



森 有希 准教授

森先生、いつもわかりやすい言葉で、授業づくりの大事なポイントをご教授くださり、本当にありがとうございました。

「本時でいうと…」 「ユニットをより生かすには…」 という視点で、思考を深める問い返しポイントを示してくださいました。

「自分の授業に生かしたいこと」参加者のリフレクションシートから

- ユニットを組んでの授業を見せてもらうのは初めてだが道徳的価値を深めるためには効果的だと思う。ぜひ参考にしたい。
- 「揺さぶるときは揺れるまで揺さぶる」ということが心に残った。授業の具体的な場面の記録をもとに改善策を考えることは、とても大切だと思う。 など

今年度、東中筋小学校の授業づくり講座に参加いただきました112名の皆様、本当にありがとうございました。来年度もたくさんのご参加をお待ちしております!